

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100299		
法人名	株式会社 メゾネット		
事業所名	グループホーム星の家きらり(1階)		
所在地	岡山県岡山市中区倉田576-8		
自己評価作成日	平成 25年 9月 26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigvosvoCd=3390100299-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 25年 10月 28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・レクリエーション等の充実を測り、月ごとにイベントを計画するなどし、日中や日々の過ごし方を楽しんで頂ける様努めています。
 ・ご家族との関わりをスタッフ全員が大切にしており、退所後の利用者様のご家族が地域の方として事業所を応援して下さり関係が続いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

車の行き来の多い幹線道路に面しているが、中に入るととても静かでゆったりとした時間が流れている事業所である。同法人では4カ所のグループホームを運営しており、管理者同士が集まる会議や職員からの業務報告書の提出など組織的な体制が整備され、情報交換が行われている。提出された職員の意見もできる事は取り入れていく姿勢が見られる。家族との情報交換には利用者毎に作っている情報交換ノートが有効に活用されている。担当職員が家族に連絡事項や伝えたいことを書き、面会時に家族が読んで返事を書き入れてくれている。面会した時に担当職員がいなくても情報交換ができるツールとなっており、いい取り組みだと感じた。また、医療機関の協力もあり、本人や家族の希望があればターミナルケアにも取り組んでいる。職員の「最期まで見てあげたい」という気持ちがひとつになり、家族が納得できる支援ができるよう心がけている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(1階)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念に基づき介護の「理想」を「現実」に変える努力を惜しまない。	職員が折に触れて見る事ができるよう、事務所に掲示している。本人の希望と家族の希望が合致することが少なく、どうしても家族の意向に添う支援になる事が多いが、お互いが折り合えるポイントを模索し、満足して頂ける支援を心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、お祭り、発表会などに利用者様と参加している。	町内会に入会しており、溝掃除や草取り、お祭りなどイベントに参加している。毎年、中学生の職場体験を受け入れており、学生も優しく、利用者も喜ばれている。	ボランティアの慰問や幼稚園・小学校との関わり等、外部との関わりを増やしていくことで、利用者が笑顔になり、気分転換や楽しみに繋がると思われます。事業所からの働きかけを期待しています。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に関わっている人も増えてきている為、理解してくださっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	普段の生活やレクリエーションをDVDで観てもらい伝えることで一人ひとりの表情をわかっていただけている。	3カ月に1回、開催している。町内会長や公民館長、民生委員、ひまわり会代表(地区の老人会)等が参加している。テーマによって消防署や地域包括支援センターの参加も依頼し、色々な質問や意見交換をしている。日常の様子をDVD編集し見て頂くなど、事業所を知って頂くことを大切にしている。	現在、開催頻度が3カ月に1回とのことですが、できれば2ヶ月に1回、開催できるよう計画し、実施して頂くことを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員の方に運営推進会議に参加していただき、活発な意見交換を行っている。	施設長が中心となり、市の介護保険課との連絡を行い、連携を図っている。申請などの際は窓口に出向くようにつとめている。地域包括支援センターとは運営推進会議を中心にいろいろな情報交換を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいるが施錠は行方不明者・事故などの安全確保のためしている。	身体拘束はしないという方針のもと、見守りを第一とした支援を行っている。センサーマットや鈴など活用し、音がしたら行くなど気を付けている。事業所前に幹線道路があり、やむを得ず玄関の施錠は行っている。会議の際、資料などを配布し、勉強会も実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉遣い、勉強会などで職員の意識を高めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて活用するが今はそういう立場の利用者は入居していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家での生活の問題点を把握して解決できるように支援していく。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会簿に意見交換ノートを添付し、相談したり、面会時には世間話を交えコミュニケーションを取っている。	1人ひとりの情報交換ノートを作成しており、職員からの報告を面会時に読んでもらったり、家族からの返信を書いてもらったりしている。年3回、家族会が中心となる行事があり、交流会にもなっている。面会時に希望を聞き、できるだけ取り入れるようにしている。	個々の情報交換ノートが上手く活用されています。それぞれのプライバシーを守りながら、情報がきちんと伝わるよう工夫されており素晴らしいと感じました。今後も継続をお願いします。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務報告書に本社宛と施設長・管理者宛と別々に報告書がある。その中に困ったことや意見を書く項目がある。	職員は毎月の業務報告書を作成し、提出している。意見を記入する欄があり、何かあれば本社で検討し、反映できるものは反映している。みんなストレートに意見を記入している。また、管理者と職員でメールアドレスを交換し、些細なことでも聞くことができる体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務報告書や日々の話の中で気持ちを汲んでくれ、どうすればいいか相談に乗ってくれる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議や勉強会、社外の研修については勤務調整を行うなどして取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の施設長が集まる会議、各事業所の職員たちの意見交換の向上委員会といった場を設けて取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員が気づいた時など、申し送りノートを記入して職員全員が同じ方向を見てご利用者様のケアにあたっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とのコミュニケーションを大切に、担当制にしている。日常生活の状況をお話するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様ひとりひとり担当がいる。その担当職員が休みの日でも他職員が近況報告している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で簡単なお手伝いはさせていただいている。特に入浴は一人なので若い頃の話やご家族の話聞くことが多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人、ご家族と信頼関係を築いていく事を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の方からはがきや手紙が届いたら返事を書くように勧めている。	もともと地域に住んでいた利用者が多く、ご近所の方が訪問され、話をしたりしている。仲の良い方は利用者も覚えていることが多く、喜んでいる。好物の大手まんじょうや御座候など、家族が買ってくることもある。本人がお墓参りを希望され、家族と職員で協力し実施したところ、安心されて心の有り様まで変わった例もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	協調性のあるご利用者様が多いのでうまくいっているように思うが耳が遠い方もいらっしゃるので職員が間に入って話をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了するとなかなか関わりにくい面もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外出が好きな方には少しでも外へ出るように支援しているし、買い物が好きな方にはスーパーまで一緒に行っている。	できるだけ、利用者と話をする時間を多くもつようにし、会話の中から強い気持ちや思いなどを把握するように努めている。担当制をとり、利用者の細かな状態把握や環境整備に努めている。また、毎月の新聞に『今の様子』として日常生活の様子や変化など記入し、家族に知って頂いている。家族からも分かりやすく、うれしいと好評である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	若い頃のこと、結婚されていた時のこと、家で生活していたときのことなどをお聞きし、話をするきっかけにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事量やバイタルなどで異変がないか、常に気を配っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	問題点を職員同士でカンファレンスをしている。	担当職員が中心となり作成、カンファレンスにて意見交換を行い、最終的にケアマネジャーがチェックしている。作成時には家族に今後の希望など尋ね、記載している。医療面について主治医に意見を聞くこともある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	水分摂取やどのような声掛けが有効かなど、職員同士で情報を申し送っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族、職員同士で意見交換し会議のときに報告している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一歩外に出るとすぐ駐車場で車の出入りがあるので気をつけないといけないが、施設前の畑に野菜を植えたり、お花を植えたりして楽しんでもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は24時間いつでも何かあれば往診くださり、訪問看護師さんは毎週金曜日に来られる体制になっている。	協力医療機関より2週間に1回、往診があるが、家族が希望するかかりつけ医に受診している場合もある。訪問看護も週1回、来所しており、健康管理を行っている。必要時には訪問歯科も利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になることを話せば適切なアドバイスをしてくださる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に行ったとき、担当者の方とお会いしたり、ご家族、ソーシャルワーカーの方と情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアが必要な場合はご家族・主治医を交えて話し合いをする。	看取り支援は本人や家族の意向を第一に考え、希望があれば実施している。入居時に指針を提示し、家族に説明している。協力医療機関の医師も看取り支援に対して協力的である。看取りの経験もあり、職員で話し合う機会を設け、「最期までみてあげたい」という気持ちを共有し、支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを用意している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラーの設置、町内の方々と訓練もしている。	年に2回避難訓練を昼夜を想定し、実施している。消防署の立会もあり、助言ももらっている。緊急通報システムの訓練をし、手順も分かりやすく掲示している。町内の方も参加している。冷凍食品やスポーツドリンク等を備蓄している。	地域の方も協力もあり、充実した避難訓練が実施できています。今後、地震や水害などを想定した訓練の実施について検討して頂くことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者さんのペースに合わせた食事時間やお一人おひとりに合わせた時間を配慮している。	居室がそれぞれの家となるので、入るときには必ずノックをし、声をかけるようにしている。また、人前でデリケートな事を言わず、さりげなく居室へ行き、話をするなど心がけている。会議で接遇や言葉かけについて資料を配布している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	したい事や今思っていることなどできるだけお話をお聞きするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何かする時は無理強いしない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧をされる方はほとんどいないが、髪をといたり、着る服を選んだり支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ゴマすり、盛り付けなど出来ることをお手伝いしてもらっている。	食材の買い出しには利用者と一緒に出かけることが多い。また、洗い物やテーブル拭き、下ごしらえ、盛り付けなど出来る事はしてもらっている。玄関前の菜園で採れた野菜(きゅうり、トマト、ホウレンソウ、枝豆など)も活用し、楽しんでいる。食事を大切に考え、それぞれのペースでゆっくり食べてもらえるよう心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとり一人食事量や水分量は違うが、好きなものを飲んでもらったり、ゼリーやおしるこなど水分のとれるおやつを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で義歯の取り外しが出来る方はご自分で、できない方は介助し毎食後ケアしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を決めて誘導したり、見守りしたりして支援している。	利用者1人ひとりに合わせた排泄支援を行っている。便秘の方が多いため、繊維質の多い食事の提供を心がけている。主治医と相談し、緩下剤を服用されている方も多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取だけでなく下剤を服薬していただくときもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	順番はあるが失禁・失便された方や翌日受診の方など優先している。	基本的に週2回程度入浴できるよう支援している。利用者の人柄、性格、行動などを考慮し、タイミングよく声かけし、入浴に誘っている。1対1のコミュニケーションの場として活用している。入口にある『秘湯の湯』という暖簾が雰囲気を出している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の年齢・習慣を考慮し朝食後や昼食後は休んでいただく方が多い。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	説明書をファイルしてあるので職員がすぐ理解できるし、変更があれば申し送りノートで知らせている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出・買い物、会話、歌などご利用者様同士、職員も交えて楽しめるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外出するのは難しいが外出の好きな方には短時間でも外で過ごせるようにしている。(外出がキライな方もいるため)	個々の希望を聞きながら、買い物や散歩など行っている。菜園の水やりや食材の買い出し、洗濯物干しなど日常の中で出来るだけ利用者と一緒に出来る事を探している。クリスマス時期にはドライブでイルミネーションを見に行ったこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持って買い物に行かれる方は1名のみだが、スーパーと一緒にいき、ほしいものは立替金という形で買っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持たれているご利用者様もいらっしゃる。自ら電話はいつでもかけられ手紙の返事も書くよう勧めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出す為にその月に応じて手作りのものを飾ったり、一緒に作ったりしている。テレビも見やすい場所に設置している。	フロアが広く、ソファスペースも用意されゆったりと過ごせる。キッチン是对面式で広いスペースがあり、利用者と一緒に洗い物をしたり、調理をしながらフロアを見守ることもできる。壁面には季節の作品や今年の抱負、行事の写真などが飾っており、にぎやかである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにおひとりお一人の席があり、ご利用者様同士お話されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族が今まで使用している家具を持ち込まれていることが多い。ご家族の写真が貼られている居室も多い。	仏壇を置き、毎日読経される方、好きな花や動物の写真や行事の写真、家族写真を貼っている方、昔の職場を思い出せるような学校の机やイスを置いている方など、利用者の好みや個性が反映されている。ベッドの配置は、ご利用者の動きやすさを考慮して決めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒防止の為、つたい歩きが出来るよう家具の位置を変えたり、トイレのすりを増やしたり安全に過ごして頂けるよう配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100299		
法人名	株式会社 メゾネット		
事業所名	グループホーム星の家きらり(2階)		
所在地	岡山県岡山市中区倉田576-8		
自己評価作成日	平成 25年 9月 26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigvoCd=3390100299-00&PrefCd=33&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	平成 25年 10月 28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(2階)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所に理念を掲示し、良いサービスが出来るように努力し実施している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内のお祭りや行事等に参加させてもらっている。近くのスーパーに買い物と一緒に رفتり、散歩に出たりするなどし、すれ違う際は挨拶をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事の参加等を積極的に行うことで実際の対話や行動などスタッフの対応を直に目にすることで理解して頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者の意見やアンケートをサービス向上に生かしている。日常生活や事業所での取り組みなどDVDなどで紹介して伝えている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターと連絡を取り、協力関係を築くようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理解はしているが2階は非常階段エレベーターとあり施錠は安全を第一優先としている。(交通量が多い道に面しているため)		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や勉強会などの資料を参考にしている。言葉遣いなどにも注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所後の不安、ご家族との関係性、生活パターンなど安心して生活をしてもらえるよう支援している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	情報交換ノートを面会時に見てもらったり、書いていただいている。毎月担当者がコメントを書いて郵送しているの誰に言ってもいいか・・・とすることがないようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とのコミュニケーションを図るようにしている。毎月業務報告書を活用している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	報告書などの意見を元にケアしやすい環境にしている。会議に参加したり、利用者様と関わったりして思いを聞いてくれる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の確保や無理な勤務にならないための調整などをし職員の思いなども聞いてくれる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービス向上のため関連事業と交流。地域行事の参加等に入られている同業者とすすんで交流するなどして努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の言われたことや不安、困っていることなど記録にしっかり記入し、職員の情報共有に勤め声掛けの内容などに一貫性を持たせることで安心していただけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の一番の悩みと不安の解消がご本人の希望と合致するような目標設定することで安心をまず得られるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	確認や意見をしやすくするために情報交換ノートを活用している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	レクで楽しむだけでなくお膳拭きや調理の手伝い、洗濯たたみなど生活に必要なことを共に行うことで関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の思いを第一に考え支援していくようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣に住まれていた方の入居が多いため近隣の散歩や町内活動に参加することで関係継続の支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操や歌など何かを一緒に行うことで支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ターミナルケアで退去となり喪失感のご家族と共感できるスタッフとの関わりを続けることで支援をケアに繋がっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人が一番話しやすい状態を一人ひとりにあわせゆっくり話しを聞き、本人らしさのある生活を支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族と話をすることで今までの生活環境の把握に努めている。また、ご本人も話すことでご自分の習慣を思い返している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	いつもと違う行動に対して何故そうしているのかとまず理由を考えるようにし、変化に気づけるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常のケアの中の問題点をカンファレンスでモニタリングしている。又、日々の申し送りの際に意見交換を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人、個人の記録の確認だけでなく水分量・食事量の変化なども細かく記入し、申し送りで把握し支援に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	前例のない事項でもそのご家族とご本人にとってい必要なことであれば職員間で話し合い実施に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	バス停がどこにあるか分かることで交通手段があると安心されることもあり、散歩をしながらバス停の場所を確認したり、近くのスーパーで季節の飾りを見て四季を感じたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診と訪問看護との24時間体制で安心した医療が受けられている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段の生活で気になる所や状態を伝え、気をつけた方がいいこと、対策など相談しその都度教えていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会時には状態や様子を聞いたり、医師やソーシャルワーカーとも情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	実際のケアで得た事柄を元にご家族、ご本人、主治医と早い段階で話し合いを行い情報を共有しながらチームで支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応、昼夜・入浴時、事故発生時などに備えてマニュアルを整備し掲示している。緊急時の対応など、消防署立会いで学ぶ機会もある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。運営推進会議等で消防を交えての通報訓練や避難場所の確認なども行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の性格や気持ち、今までの生活環境や暮らし方などを大切にされた対応や声掛けを心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人との会話の中で本人の思いや希望を知ったりゆっくり話しを聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員がそろっているから外出に行けるので行くmというのではなくご本人たちが行きたいかを優先している。職員がいないときでも日光浴など希望にそえるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、就寝時、入浴時等の更衣の際にご本人に声掛けをしてどのような服が着たいかなど選択できるような声掛けに努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立をホワイトボードに書くなどしてメニューが分かるようにしている。献立により職員と一緒に楽しみながら準備を行ったり片付けなどしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	決められた食事、水分摂取の時間に限定せず、ご本人が摂取しやすいとき、ほしい時に提供できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや誘導を行っている。本人の意思を大切にしている。月に2回歯科往診があり、口腔ケアと検査を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや量、時間などその人に合った誘導を行うようにしている。又、パットも個人に合ったものを使用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分が取りにくい方はスポーツドリンクやゼリーなどで工夫している。また、日光浴や散歩、体操など運動が行えるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日程はだいたい決まっているが拒否をされる方にはなぜ拒否をされるかを理解し楽しく入浴して頂けるよう声掛けし支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとり一人の状態や体調なども見て日中休んでいただいたりもしている。夜間不眠が続く方には日中活動的に動いていただいたりもしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書、お薬手帳を同じファイルにし、一箇所に集め見やすい様保管している。緊急時すぐ持ち出せるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に合ったことを無理のない程度でお願いしている。その方の趣味だったことなどを職員と一緒にしたり写真に取ることでやりがいを感じられている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段は行けない場所や遠出などにはご家族や主治医と連携を取り、事故や無理がないように計画を立てて実行している。また、近場ではスーパーなどの買出し散歩などに出かけることが多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所の金庫にお金を預っている方もいる。町内のお祭りや買い物の付き添いなどで所持したり、支払いをお願いしたりすることもあるが一人ひとりに合った対応を心掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話をかけることができ、手紙が出せる支援もしている。電話の番号は職員が押し本人に替わることが多い。手紙の投函は職員が行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビは全員が見える位置に置いている。壁には手作りカレンダーを設置しており、季節の飾りをしている。また行事や企画などで撮った写真を貼りよく話題になっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれに使い慣れたものを持参されている。また仲のいい利用者様同士で席を近づけるなどして話しをしやすい環境作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具などを持ってこられている。担当が決まっているが気づいた職員が整理整頓を心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり等があること、トイレや居室に名札をつけ認識している。自分のものは自分の名前を確認しご自身で管理するよう支援している。		